

Message  
from  
Supporters

目の前の相手をどれだけ信じていることができるか？  
逆に、その人からの信用・信頼はどれだけか？  
両者の立場に立った時、双方が同じ量で納得しあ  
う大切さ。  
これらを第一に皆がよりよく生きる力を持てたら  
なあ。

ポルノや性風俗産業に関し、社会に様々な意  
見があることは知っている。しかし相談者の  
苦しみは現実にある。その苦しみの源泉にた  
どり着き、何が彼女らを傷つけているのかを  
明らかにすることが我々の使命だと思う。

12月からボランティア相談員をやっています。  
身近な人に PAPSの概要を話すと「そんな現実  
があるなんて」と驚かれます。今、福祉業界で  
働く方にさえも同じ反応をされることがありま  
す。その「知らない」ことが見えない差別を生  
んだり、加害者になってしまったり、知らない  
間に傷つけたり、声を挙げたくても挙げられな  
い方を生んでしまうのではないかと思うことが  
あります。まずは周りに知っていただくこと、  
私にできることの一つだと思い活動しています。

私はこれまで、児童施設、婦人保護施設、  
行政の婦人相談員として働いてきました  
が、パップスの支援は私にとって大きな挑  
戦となっています。生活支援を中心にソー  
シャルワークをしてきた私にとって、「性  
の商品化」「性被害」という性のど真ん中  
から支援を展開していく緊張感は今までに  
ないものです。また、相談者の「困った状況」  
の多くは、一般社会からの「自己責任」や「説  
明責任」を求める抑圧の下にあり、やり取  
りする作業もスムーズには進みません。淡  
く頼りないものになりがちな相談者との関  
係を、丁寧に手繰り寄せ、お互いの波長合  
わせを心掛けています。私たちの国で脈々  
と受け継がれ、まさに生れ出た瞬間から無  
意識に植え付けられていた「女性性の軽視」  
あるいは、あらゆる性において弱者をさら  
に弱体化する社会に対し、少しでも抗いた  
いと思っています。

相談員として4年近く関わらせて貰ってま  
すが、相談者の悩みが綺麗に解決できたと  
胸を張って言える方は殆どいません。その  
場その場で、最善の方法を考えて相談者さ  
んと一緒に決断してきたつもりですが、今  
思うとあの時ああいう事が出来たのではな  
いか等、むかしを振り返ったりしています。  
全くかっこいい事は言えませんが、それ  
でも私達に相談して欲しいと思います。誰に  
も言えなかった悩みを見ず知らずの支援団  
体に話してくれる相談者の勇気は無駄にし  
ないです。

NPO法人ぱっぷす  
活動報告書 2017-2018



性的搾取  
私たちの世代で  
終止符を打つ

特定非営利活動法人 ポルノ被害と性暴力を考える会(PAPS:ぱっぷす)  
〒113-0023 東京都文京区向丘2-27-6-2F  
TEL: 050-3186-4119 FAX:03-6304-2564  
HP: <https://paps.jp> Mail: [paps@paps-jp.org](mailto:paps@paps-jp.org)



## 2017-2018 年度 サポーターのみなさまへ



理事長

**田口 道子** Michiko Taguchi  
ソーシャルワーカー・元婦人保護施設長

パップスに関心を寄せ、ご支援ご協力を頂いている皆様へ心から感謝申し上げます。

パップスには、現在まで累計500件を超える人々からの相談が寄せられています。

自立して社会生活をしていた人が、スカウトに騙されたり、さまざまな事情で自分から進んで出演した人も自分が考えていたことと違う結果に戸惑い、恐れながら日常生活を送っています。性暴力、性搾取と気づかずに自分を責め続けている人もいます。

一人で抱え込まずに、相談することによって、ともに考え、手だてをつくし、ひとそれぞれではありますが、少しずつ自分を取り戻していきます。「デジタル性暴力」という現代ならではの被害も深刻で皆さんと共有していかなければなりません。これはグローバルな視点で考えていく必要があります。「性搾取のない社会へ」みなさんのご理解とご協力が何より必要です。



副理事長

**中里見 博** Hiroshi Nakasatomi  
大学教員

本会にご関心をお寄せいただき、またご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

本会は、2017年にNPO法人に認定されたばかりですが、会の設立自体は 2009年で、2012年までポルノや買春の被害を考えるシンポジウムを毎年開催したり、本やパンフレットを出版したりといった社会啓発活動を地道に行なってきました。

その後、AVへの出演を強要された女性たちから緊急の相談が本会へ多数寄せられるようになり、ここ数年は AV などの性産業に巻き込まれ助けを求め人びとへの相談支援を活動の中心にしています。

私たちはこれからも、性産業の中でさまざまな被害を受けている方々の相談支援を中心に、そこでの人権侵害や性暴力の実態を社会に広く訴える活動に取り組んでまいります。

なおいっそうのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



理事

**北原 みのり** Minori Kitahara  
作家

身を切るような悔しさや、ひきずりこまれるような黒い恐怖に包まれて、眠れない夜を過ごしている女性たちの声に、この一年、出会ってきた。女性たちの声は一人一人違うのだけれど、その背後で彼女たちを追い詰める暴力は、いつも同じ顔をしていた。女の人生を軽々と踏みじり、尊厳を握りつぶし、「全てお前の選択だから」と女にだけ責任を押しつけ、沈黙を強いる力。それは一部の悪人の特殊な振る舞いというには、あまりにも組織化され、洗練されている。その大きな力を前に声をあげるのはどれほど怖いことだろう。それでも、苦しさにもがいているのは絶対に、あなただけじゃない。一人じゃないから、まずはここに来て、ここで話してみて。そんな風に PAPSがより多くの人の安全な場所、信頼の場所、自由を獲得する場所になるよう、力を尽くしたい。

理事 **横田 千代子**

婦人保護施設いずみ寮施設長

AVの被害、ポルノによる被害、水面下に果てしなく広がり、女性たちを支配しています。PAPSはその支配に真っ向から向き合っています。一人の性被害は、一人に留まらず、社会全体が、取り組むべき、喫緊の課題です。国による早急な具体的施策が必要です！

理事 **堀 洋子**

ソーシャルワーカー

NPO法人となり、今回初めて活動報告書を発行できるのは、PAPSへのあたたかなご支援とご協力を頂いているみなさまのおかげと深く感謝しております。PAPSの支援が必要な方々に届けられるよう経済基盤をしっかり固めていくよう努めてまいります。

理事 **金尻 カズナ**

相談員・相談支援マネージャー

PAPSは、デジタル性暴力・性的搾取などの深刻な人権侵害に取り組んできました。多くの傍観者の中、人は捨て駒にされ、一方で、事業者は大きな利益を得ることがわかりました。私たちは決してあきらめない。みなさまと力あわせ、これからも道を切り開いていきます。

国際顧問 **キャロライン ノーマ**

大学教員

日本国外の観点から見て、いかに NPO法人PAPSの社会活動が重要であるかを痛感いたします。社会にポルノが蔓延する問題は国際レベルの現象です。ですから、市民団体が国境を越えて共同して問題に取り組まなければ、ポルノ産業の被害者が増える一方でしょう。海外から見ても、PAPSの活動の重要性は際立っており、注目しています。お互いに協力し合って活動を進めていきましょう。

理事 **常岡 裕道**

従来から行ってきた、精神障害者の社会復帰訓練事業への協力とともにこの問題にもかかわってゆきたいと考えています。

社員 **岡 恵**

相談員・人身取引、性的搾取担当

「困っている」という気持ちや言葉を、「別の意味」に置き換えられ、声を上げられなかった経験はないでしょうか。「困っている」その気持ちと言葉の意味をご自身の声で取り戻せる役割を担えればと願います。



『証言 現代の性暴力とポルノ被害』  
東京都社会福祉協議会 発行  
1905円＋税  
(購入申し込みはぼつぼつまで)



『ポルノグラフィと性暴力』  
明石書店 発行  
2500円＋税



『日本のフェミニズム』  
河出書房新社 発行  
1200円＋税

# アダルトビデオによる性的搾取、私たちの世代で終わりにしよう

## アダルトビデオの被写体は生身の人たちだ

ポルノやアダルトビデオが商品として世に出る出発点には生身の人がいるというこんな単純な事に気がついたのは、キャサリン・マッキノンの本からだ。私は、ずっと福祉の世界で生きてきて、性風俗や買売春の被害者である女性たちとかかわっていたのに、この女性たちと画像や動画の中にいる女性たちとはつながっていなかった。はっとした。私は見ていたはずなのに本質が見えていなかった。動画や画像というより抽象化された商品の中にある女性たちの血の息吹を感じる感受性が私には欠けていた。

1990年代に流行ったAV監督によるもっとも“過激”と言われるアダルトビデオを婦人保護施設の有志の職員と視聴した時、あまりの女性への暴力性、凌辱性、侮蔑性に

反吐が出る思いだった。この暴力性、残虐性をエンタテイメントとして楽しむ一定の消費者層がいるのだ。これだけ過酷な扱いを受けた作中の女性はどうなったのだろうか？アダルトビデオの中には性暴

力被害者などはない、というのが当時の通説であり、現在の通説でもある。ただし、PAPSや他の団体が次々に被害者を掘り起こしてきている現在、その通説にはずいぶん陰りが出てきているけれども



性的搾取の需要のない社会を次世代に渡すことを考えませんか。  
PAPS相談支援事業 スーパーバイザー  
みやもとせつこ

## AVに出演した人の苦しみ

アダルトビデオに出演して、画像がばらまかれた人たちの苦しみには、画像上なぶりものにされている自分の身体、しかも最もプライベートな身体部分を友人知人に見られてしまうこと、親に見られてしまうことへの不安感や焦燥感、不特定多数の人々に楽しまれていることへの屈辱感と恥辱感にさいなまれることがあげられる。性は、特に女性や子どもの性はさまざまな形で搾取、言ってみれば、商業化され儲けの対象にされ続けてきた。アダルトビデオの製作や流通も性的搾取の一形態だ。PAPSの活動を通じて、今まで沈黙し続けていた人たちが声を出すようになり、社会へとその声が届くルートがようやく開通した。

## 性的搾取の新しい産業の形＝アダルトビデオ産業

2010年代になって従来明らかにされてきた買売春などの性的搾取の問題に加えて、アダルトビデオの製作やその消費のプロセスには甚大な性暴力被害が存在すること、性的搾取であることが、被害者自身が訴えることによって、声を上げることによって、社会問題化してきた。マスメディアなどで“AV出演強要”などと命名された被害だ。この本質は、生身の人間の身体を使って、性をいたぶり侮辱侮蔑した画像や動画を作ることによって、このコンセプトを楽しむ“売れる性的商品”に仕立てること、被写体の女性を性的に搾取することにある。性的刺激はもっともっとと刺激を呼ぶ。だから、そのやり方はどんどん過激で

残虐になり、過激で残虐になればなるほど愛好家を満足させ、したがって業者が儲かるスパイラル、消費者は増えることはあっても減らないスパイラルが作られる。

### 宮本節子 著書



『ソーシャルワーカーという仕事』  
筑摩書房  
780円＋税



『AV出演を強要された彼女たち』  
筑摩書房  
800円＋税

## アダルトビデオの製作現場の被害の状況を社会に伝える

被害者の生の声を聞くことによって、さまざまな被害のありようが分かってきた。自分の生活は一応確立しているのに、AVに出演したことが職場、夫、身内、友人にバレ

てしまうことによって、今までの生活が破壊されてしまうのが被害だ。要するに自立して生活しているのにその生活の平安を削ぎ落されるのがAV被害なのだ。被害者などいないと言われていたアダルトビデ

オの世界にどのような被害があるのかをさまざまな広報を通じて多くの人々に知ってもらいたいと願う。

## デジタル性暴力

この被害は、その多くはインターネットを舞台に拡散していることから、“デジタル性暴力”という新しい言葉と概念も編み出した。商業的に生産される動画か否かに関わらず、現在は、個人でも性的動画を作成してインターネットで売り出すことができるテクノロジーがある。そのような社会に私たちは住んでいる。このテクノロジーを制御する方法をまだ知らない社会でもあるのだ。

## 沈黙から社会への発信へ

PAPSはこの問題を社会化する、つまり、被害者の存在を可視化することに成功した。沈黙していた被害者声の受け皿を作った。「AVに出演されそうになっている。助けてください。」2013年のある日の未明、一通のメールが来た。プロダクションの甘言に乗せられて、タレントになることを夢見て言われるままにジムに通い、プチ整形を行いなどしていた。この女性は相談先を忍耐強く一晩中探し続けてPAPS

に辿りついた。この方の件をきっかけに、見せかけは好きでやっているように見えるかもしれないがやらされていたんだ、断るに断れない状況に追い込まれていたんだ、辞めたくても莫大な違約金がとられるのでやむを得なかったんだ、などという訴えが次々に寄せられるようになって今日に至る。

## 性的搾取の需要を断つ社会を次世代へ渡そう

個人でも参入し商売ができる背景には、アダルトビデオなどの性的搾取が商業的システムとして形成される“需要”という巨大なマーケット

の存在がある。需要があつて初めて商業的活動の基盤ができる。需要のないところに“儲かる商売”は成立しない。今までの私たちの社会は、性暴力や性売買に関しては

女性に焦点を当てて対策が立てられてきた。性的搾取の需要の問題を社会問題化したことは一度もない。これからだ。

### 宮本節子 推薦図書



梨木香歩著  
『僕は、そして僕たちはどう生きるのか』  
2015年  
岩波現代文庫  
860円＋税

現在、マンガとともに爆発的に売られている吉野源三郎の原作『君たちはどう生きるか』へのオマージュ作品（初出2011年）。  
私たちは、「インジャの身の上」に起こったこと」の章を読んでいたが、この章は小説の中でも特別な位置づけになっていて、アダルトビデオの中には

凄惨な性暴力が振るわれているから社会問題にすべきなのだというPAPSの主張を、小説の形にして過不足なく表現しています。しかも、著者は、PAPSの関係者に取材することなく、「インジャ」という被害少女のキャラクターを創作し、この本質を明確に伝えています。

# 性的搾取に私たちの世代で終止符を打つプロジェクト

## 性的搾取にまつわる相談とは？

- アダルトビデオ (AV) 出演について
- 売春・性産業関連について
- リベンジポルノ
- 児童買春 (援助交際)、児童ポルノ
- 児童の性を対象にしたビジネス (JKビジネス、着エロ)
- アダルトチャット
- 性的盗撮



SNS で知り合った人に裸の写真を送るように言われている。送らないと他の人に拡散すると言われていいる。親にショックを与えたくない。相談すると親に言われてしまうのではないかと心配 (中学生)

撮影された動画が同意していないサイトで販売・公開・拡散されている

上京して学費や生活費が必要になった。単発高収入で、風俗ではないと書いてある求人を見つけた。次第に AV の撮影をすすめられるようになり、出演する方向で話が進んでいってしまった。

もう AV の撮影に行きたくないけど、辞めさせてもらえない

親からの暴力から逃げたい一心で住み込みのアルバイトを探した。求人頼って行くとアダルトチャットだった。話す相手が見えないし録画されてないか不安。辞めたいけれど、どこへ行けばいいかわからない。部屋の様子もカメラで監視されている。

## 相談支援のながれ

- 1 アウトリーチ
- 2 相談窓口
- 3 インテーク
- 4 チームで支援 (チームケア)
- 5 同行・交渉
- 6 フォローアップ



SNS・インスタグラム・ホームページ・相談者層のある学校での講演を通じての周知



24時間  
365日



1人の相談者につき2人の支援員が割り振られます。都内へお越しになるのが困難な場合支援員が遠征する事も。



2名の常勤支援員、7名のボランティア支援員、2名のスーパーバイザーで毎月支援会議が行われます。ぱっぶずの特徴として、支援員は様々なバックグラウンドを持っていて、それぞれの知見を持ち合い情報共有することで、お互いに気づきあいます。支援員1人で重い相談を抱え込んでしまうと、バーンアウトしてしまう危険性があります。相談者も支援員も、「ひとりじゃない」ことが大切です。スーパーバイザーも24時間体制でいることから、支援員も、安心して対応することができます。



相談者の被害経験や心境の変化など詳細に書かれた相談ノートを作成します。これは相談者をつなげる場所でも何度も同じ事を答えなくても良いように作成します。警察・弁護士への相談も相談しやすいように環境を調整したり、加害者や事業者と交渉して主訴の実現に向けて取り組みます。



例えばアダルトビデオの場合、最初の相談内容は「販売は停止」だとしても、画像がネット上に拡散されていたり、その後の将来、人との関わり等に不安を覚える場合が多く削除請求、面談、電話、メールをしてフォローアップします。

## 相談者の個別の状況に合わせた支援

相談者がおかれた環境や人間関係などは人それぞれなので、支援はワンパターン化させません。例えば、「AVをやめたいけれどやめられない」との相談であった場合、相談者本人が貧困で居所がなかったり、パートナーに暴力をふるわれていたり、学校で知られてしまって通いづらくなっていたりと、重大な悩みが他にもある事は珍しくありません。

これらの付随した問題も合わせて本人と一緒に考えます。AVの出演を辞められたとしても、継続的な不安に対しても支援が必要な場合もあるからです。相談の多くは1日で解決するものではなく、支援は長期化します。「動画を削除したい」という相談の場合、載っているサイトなど様々な条件によって削除されるまでの期間が変わります。

## 相談しやすい交通整理を

相談するにあたって心配な事も併せてご相談いただけます。「保護者に心配かけたくない」と、親に報告されることを恐れて相談を躊躇する方が多く、高校生時代に被害を受けたものの20歳の誕生日まで待ち、次の日に相談に来られた方もいます。PAPSは本人の意思に反して親御さんに話す事はしません。重要なのは「相談したらどう

なるのか」をわかりやすくする作業です。結果、親御さんも巻き込んで解決できた事もあります。また、中学高校生だけでなく親御さんや大人にとっても警察に行くハードルが高いため、この次はどうなるかをわかりやすくし、相談しやすい気持ちになれるよう交通整理をします。

## 7 主訴の実現

男性でも相談してよかったんだ

ずっと自分が悪いと思っていたけれどやっと話せる場所ができてよかった

削除した動画また載せられるか不安だけどそのときはまたPAPSに相談しよう

あきらめなくてよかった

## 相談支援事業の課題と活動目標

### 児童ポルノ・リベンジポルノ

(削除から、発信者の特定へ)

インターネット上には、PornHub、X-VIDEOを代表とする無数のポルノ動画共有サイトがあります。PAPSへの複数の相談を通じて、「リベンジポルノ」や「児童ポルノ」がアップロードされたアダルトビデオの中に紛れていることが分かりました。これらのポルノ動画共有サイトに削除要請をして削除されたとしても、再度投稿され続けます。警察等に相談しても、サーバが海外にあるため日本国内から投稿されたものか判断がつかず、刑事事件化できない現状があります。この様な受け身の状況から、積極的に投稿者を特定し責任追及を行う必要があります。

PAPSが実際に行った事例では、相談者と一緒に、海外にあるポルノ動画共有サイトに対して発信者情報の開示を求めたところ、日本から投稿されたことが判明しました。その後、PAPSは本人訴訟の支援を行い、発信者情報開示の仮処分や訴訟を複数回行った結果、発信者の特定ができました。国内のインターネット接続事業者は、発信者情報の開示に極めて消極的のため、発信者の特定までに約1年かかりました。今後は加害者に対し社会的責任を求めることが可能になりました。

### 活動目標

PAPSでは、業界団体やインターネット接続事業者を監督する所轄官庁に対し改善を求めています。海外の団体と連携し、児童ポルノ・リベンジポルノの被害撲滅に取り組みます。

1回あたり1万円程度でできる本人訴訟により発信者情報の開示請求ができました。もし、弁護士に依頼しても高額な弁護士費用で発信者の特定が必ず出来るという保証はありません。発信者情報については本人訴訟の有益性が大きく、ネット上における名誉回復の新しいアプローチとして社会に広く周知していきます。

### AV出演被害

(奪われた状態から、コントロールを取り戻す)

相談の多くは、インターネットで拡散されている動画や画像の削除ですが、2018年以降でも、辞めたいけれど辞めさせてもらえないという相談も寄せられています。相談者の多くは出演した時には、「同意」したかに見えるのが大きなハードルになってしまいます。しかし、実際に販売された後が大きな問題で、相談者自身の人生には全く想定外の事態が展開し、PAPS相談に飛び込まれます。

相談者の中には、人生に目標が見出せず漠然とした不安を抱えながら、商業的なメディアが演出する性産業の“きらびやかさ”に動機付けられてアダルトビデオや性産業に携わる方も後を絶ちません。特に、資本は自身の身体だから、自分でコントロールできるように思っていますが、実際に販売された後が大きな問題です。相談者自身の人生において全く想定外の事態が展開し、商品となった自分を自分でコントロールできなくなることがわかりました。一方でこれらの産業は、莫大な収益を上げていることも裁判などを通じて判明しました。

撮影現場では、演技と称して避妊具無し性交為・身体的精神的虐待が行われたことで、ずっとトラウマを抱えながら日常生活を余儀なくされた相談も寄せられています。

### 活動目標

相談内容によっては警察、弁護士につなげたり、AV業界団体も販売停止を行う社会資源の一つと捉え、相談にこられた方たちの要望に応える努力をできる限りしています。18歳～19歳の被害相談の場合、AV出演の未成年者取り消しをすれば、契約前にさかのぼり契約が無効になります(適及的無効)。

既に販売されている場合は、事業者は莫大な収益をあげているため、PAPSでは、これらの不当収益について被害者に還元できるような判決を求めた裁判支援を行っています。

海外の無修正ビデオについては、法律の抜け穴を駆使して販売が行われており、海外のNPOや弁護士と連携しながら、被害救済と加害者の責任追及を求めています。AV出演被害は、消費者契約や特定商取引に関する問題でもあることから、特定消費者団体と連携しながら、被害救済を目指します。

### 性産業から昼職へつなぐ

(「出来る」に出会う)

AVを含む性産業は長年従事することが厳しいと言われていて、昼職に戻れない対人関係や金銭管理、日常生活スキルなどさまざまな生活の課題により、性産業に依存しながら生活困窮に陥る場合があります。PAPSでは性産業を辞めたい相談者と早期に関わることで生活困窮を未然に防ぎ、自立につなげることを目標にしています。

相談者の中には、社会的には理解しづらい事かもしれませんが、性産業に携わることで、誰かから必要とされた気持ちが芽生えますが、それは一時的なもので、将来の不安を紛らわせ、打ち消すうちに“依存”の状態に陥り、“性産業”という不安定な居場所から抜け出せなくなっているという相談が寄せられます。

たとえ昼職に繋がったとしても、ふとしたことで、性産業に精神的に依存していた当時の記憶がよみがえる、収入が少ないことで預貯金が目減りする、生活リズムを勤務形態にあわせることが厳しい、また中には「君は風俗でしかやっていけない」と言われ、風俗ではない仕事で自分はやっていけないのではないかとこの想いと戦っていると語る相談者もいます。

### 活動目標

福祉や行政機関に繋がるまでの間、面接を重ねながら、居所の確保や生活管理の仕方・金銭管理の仕方・食生活の改善方法など日常生活スキルの獲得への支援、および福祉の制度利用に抵抗のある方への理解促進・情報提供を行います。

金銭感覚が失われた相談者の場合は、時間をかけながら、生活水準に見合ったライフスタイルの提案をしていきます。金銭感覚そのものは、本人の価値意識に関わるものなので、本人の自尊心を傷つけないよう注意しながら異なる生活スタイルの提案を行います。

昼職では到底賄えない金額の高級マンションに住まわされている場合は、代替居所の紹介を行います。

将来的には、ソーシャルビジネスの一環として、性産業に携わった方の社会の居場所をつくるために、昼職をしたい方のための就労先や人材派遣業を自ら運営することも考えています。

### ネットの削除請求

(決して、あきらめない)

PAPSでは、不法にアップロードされた児童ポルノ・リベンジポルノ・販売が停止されたアダルトビデオについて削除請求をボランティアで行っています。しかし、インターネットで拡散し尽くした画像や映像の削除要請をするためには、ピックアップ業務(画像・映像・サーバ管理者の連絡先の特定)をする必要があります。相談者自らネット検索して、これらの画像や動画を探し出すことは、精神的にも辛いことから、なんとかしてほしいとの要望が多く寄せられました。

PAPSでは、ピックアップ業務のみをアルバイトの方に時給1000円で費用は相談者が負担し、削除要請はPAPSが行うという仕組みを2017年12月から開始しました。ケース毎にもよりますが、児童ポルノ・リベンジポルノではほぼ全てを削除、アダルトビデオの場合は約70%の削除を行うことができています。しかし、アダルトビデオの場合は、削除の法的根拠が乏しく「肖像権の侵害によるお願い」として削除要請をしています。要請しても応じないサイトは3割程度あります。

### 活動目標

削除要請に応じない3割のサイトの中の多くは海外にあります。応じないサイトの多くは複数の相談者の画像や動画が投稿されているため、集団で訴訟を提起したり、海外のNPOと連携しながら対応していきます。

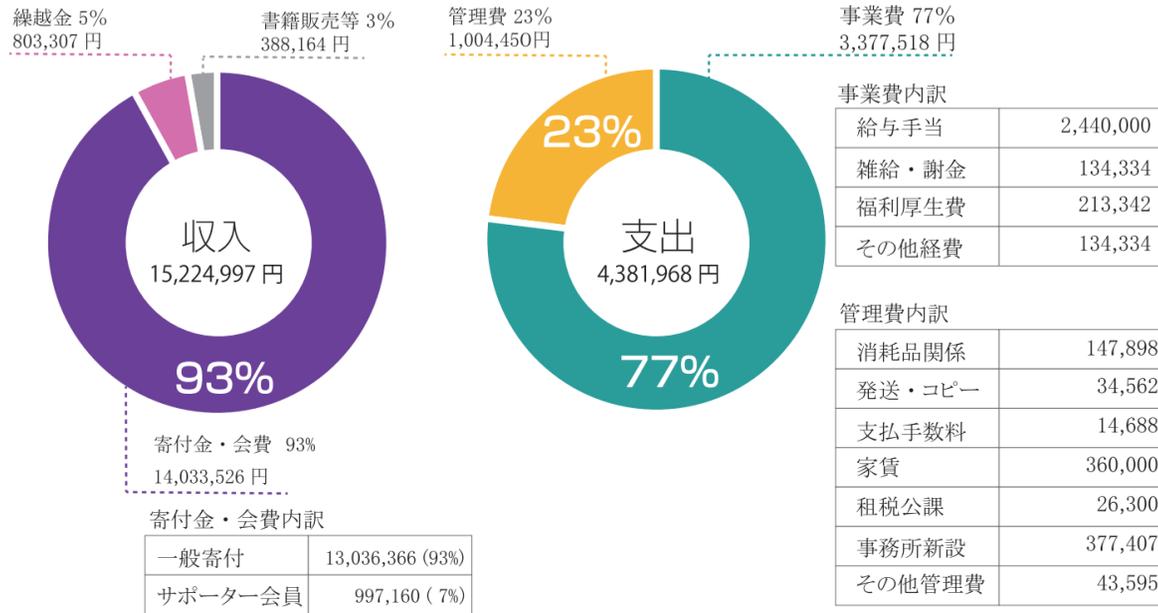
書面の郵送でないと受け付けない国内の事業者もあるため、スムーズに書面の発送ができる仕組みを構築していきます。

ピックアップのアルバイトは、数名の方に不定期で依頼しています。動画投稿者の特定には専門性を必要とします。

2018年9月まで、14人の相談者がピックアップのアルバイトを利用し、合計3489件の削除要請を行いました。まだ依頼する数は少ないですが、今後の受容の増加が見込まれます。安定した削除請求体制を整えるためにも、スタッフのフルタイムで雇用をするために組織基盤の強化に努めていきます。

# 性的搾取のない社会をつくるためにお力添えをありがとうございます。

## 会計報告 (2017年4月～2018年3月)



## PAPSの財政基盤について

ぱっぷすは相談費用は一切かかりません。その為、相談支援事業等ぱっぷすの活動に必要な不可欠な支援員の人件費、事務所の維持費、相談者との面談のための交通費や施設費は完全に皆様からの寄付金で可能となっています。性的搾取の中でも AV 出演による相談は周知されつつあり、それによりアダルトビデオの相談を含む性的搾取の相談者数は着実に増えております。相談の内容も支援方法もその時々々の社会状況によって変化しています。100%願いにこたえられていませんが、ノウハウを蓄積し、

実績を上げられるようになってきました。長期化する相談もある中、藁にも縋る思いで新たな相談も寄せられています。ぱっぷすは直接支援を大切にしています。これからもよ

り質の高い支援を届けられる様、人員を増やす必要がありますが、人件費が足りません。安定した活動資金を必要としています。



## 「何か行動したい」と思っただけでしたら

### 1 サポーター会員としてぱっぷすの仲間になっていただけませんか？

安定した活動基盤を維持するため  
ご寄付という形で毎月の活動を継続的に支えていただく会員です。  
ともに私たちの世代で性的搾取に終止符を打ちましょう。

### 会員3大特典

- 1、ぱっぷすから入会セットが届きます。  
年次報告書、性的搾取の問題をご周知いただけるための資料
- 2、毎月、メルマガをご送付します。  
毎月、ぱっぷすの直面する状況を共有できます。
- 3、会員向けの活動報告会にご招待いたします。  
活動の報告と、今後の活動方針について詳しくお話しいたします。  
性的搾取のない社会を目指す人同士の交流の場になれば幸いです。



QRコードからPAPSの公式HP内寄付ページにアクセスが可能です。サポーター会員のお申込み、クレジットカードによる一般寄付もいただけます。

## ぱっぷすから2つのご提案とお願いです。

### 2 PAPSの出前講座を是非ご活用ください

スマートフォンの爆発的な普及・巧妙化する性的搾取のビジネスによって、若年者が狙われています。PAPSでは、相談現場から見える被害の現状、トラブル回避や未然に防ぐ為の知識（メディアリテラシー）、他人が侵害してはいけない自分の権利がある事、法的にどのように守られているかなどもお伝えします。支援者向け講座では、相談ケースをもとに、どの様に相談者に寄り添いながらデジタル性暴力に対するソーシャルワーク実践を行えば良いかをご紹介します。講義・ロールプレイ・グループワーク等様々な形式でさせていただきますことが可能です。大学での講義では「中学や高校の時に学んだ方が良いのでは？」という声も多くいただいています。中学・高校・大学での講演や講義、支援員養成講座、市民向け勉強会などに是非ご活用ください。

お問い合わせ  
NPO法人PAPS（ぱっぷす：ポルノ被害と性暴力を考える会）  
電話：050-3186-4119 メール：paps@paps-jp.org  
HP：https://paps.jp

